

大学受験のとらえ方のタイプによる キャリア選択自己効力感の違い —教員養成系と非教員養成系の大学生を対象として—

堀井順平(広島大学)

キーワード: 大学受験のとらえ方, キャリア選択自己効力感

問題と目的

堀井(2017)は、「現時点で、自分の大学受験をどのようにとらえているか」を表す「大学受験のとらえ方」と大学受験期の努力の程度の組み合わせによる、キャリア選択自己効力感(CDSE)の差異を明らかにし、入学後のキャリア形成の観点から、大学受験のとらえ直しの重要性を示唆している。しかし、堀井(2017)では、教員養成系の大学生を対象とし、大学受験のとらえ方に加え、大学受験期の努力の程度も取り上げており、入学後の大学受験のとらえ直しが本当にキャリア形成に有益であるかは不明瞭である。この点を確認するために、大学受験のとらえ方のみを取り上げてタイプに分類したうえで、タイプごとのCDSEの高さの違いを検討する必要がある。また、教員養成系の大学生において得られた知見が、非教員養成系の大学生においても同様に確認されることにより、大学受験のとらえ直しがより広範な大学生にとって有益であることを示すことが可能となる。

以上の点を踏まえ、本研究では、教員養成系と非教員養成系のそれぞれの大学生を対象に、大学受験のとらえ方のタイプによる、CDSEの違いについて検討することを目的とする。

方法

調査対象者

堀井(2017)と同一の教員養成系の大学1,2年生259名と、非教員養成系の大学1,2年生246名を分析対象とした。

調査内容

大学受験のとらえ方(堀井, 2017)とCDSE(花井, 2008)の尺度を使用した。

結果と考察

まず、教員養成系の大学1,2年生を対象とし、大学受験のとらえ方の下位尺度を投入変数としてクラスター分析を行い、4群を抽出した。各群は、大学受験を肯定的にとらえている「肯定群」、肯定面と否定面とわりきってとらえる面とが混在している「葛藤群」、無意味な経験としてとらえる傾向にある「大学受験軽視傾向群」、否定的にとらえている「否定群」と命名された。続いて、非教員養成系の大学1,2年生を対象とし、大学受験のとらえ方の下位尺度を投入変数としてクラスター分析を行い、3群を抽出した。各群は、大学受験を無意味な経験としてとらえている「大学受験軽視群」、否定的にとらえている「否定群」、肯定的にとらえている「肯定群」と命名された。

教員養成系、非教員養成系の大学生別に、各々の大学受験のとらえ方の群を独立変数、CDSEの下位尺度を従属変数として1要因分散分析を行ったところ、Table 1のとおりとなった。その結果、双方の大学生に共通して、「肯定群」が「否定群」や「大学受験軽視傾向群」あるいは「大学受験軽視群」よりも、一部のCDSEの下位尺度の得点が有意に高かった。よって、教員養成系と非教員養成系の大学生の双方ともに、大学生活の早期の段階で大学受験を否定的に、あるいは無意味な経験としてとらえている場合、肯定的にとらえ直すことが、キャリア形成に有益であることが示唆された。

Table 1 大学受験のとらえ方のタイプを独立変数、キャリア選択自己効力感の下位尺度を従属変数とした1要因分散分析の結果

	教員養成系の大学1,2年生				F値(3, 255)	多重比較	非教員養成系の大学1,2年生				
	1. 肯定群 n = 67 M (SD)	2. 葛藤群 n = 52 M (SD)	3. 大学受験 軽視傾向群 n = 71 M (SD)	4. 否定群 n = 69 M (SD)			1. 大学受験 軽視群 n = 69 M (SD)	2. 否定群 n = 115 M (SD)	3. 肯定群 n = 62 M (SD)	F値(2, 243)	多重比較
自己評価	2.96 (0.59)	2.66 (0.44)	2.83 (0.57)	2.79 (0.57)	2.94*	2 < 1	2.81 (0.56)	2.78 (0.52)	2.95 (0.57)	2.03	
目標選択	2.83 (0.74)	2.42 (0.66)	2.57 (0.84)	2.41 (0.75)	4.43**	2, 4 < 1	2.37 (0.66)	2.46 (0.65)	2.66 (0.69)	3.44*	1 < 3
計画立案	2.28 (0.68)	2.14 (0.58)	2.04 (0.60)	1.94 (0.64)	3.54*	4 < 1	2.06 (0.60)	2.24 (0.58)	2.38 (0.70)	4.54*	1 < 3
情報収集	2.67 (0.63)	2.44 (0.59)	2.46 (0.62)	2.55 (0.64)	1.83		2.59 (0.62)	2.70 (0.55)	2.77 (0.69)	1.57	
意思決定の 主体性度	3.27 (0.48)	2.88 (0.59)	3.00 (0.74)	2.89 (0.61)	5.83***	2, 3, 4 < 1	2.67 (0.65)	2.83 (0.59)	3.17 (0.57)	12.05***	1, 2 < 3

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$